

1 初期ギリシア哲学 —ミュトスからロゴスへ (西洋古代哲学)

問1 文章中の[ 4 ]に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ  
(2007年本試)

「怒りを歌え、女神よ、ペレウスの子アキレウスの」。これは[ 4 ]の『イリアス』冒頭を飾る言葉である。人類最古の叙事詩の一つが「怒り」を主題とすることは、この感情が人間にとっていかに重要であるかを暗示している。ここでは、先哲たちの声に耳を傾けて、怒りが倫理的観点からどのように捉えられてきたかを考えてみよう。

- ① エンペドクレス                      ② ソフォクレス  
③ ヘシオドス                              ④ ホメロス

問2 タレスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
(2006年追試)

- ① 世界は生成変化のうちにあり、静止しているものはないと考えた。  
② 世界は根本的原理によって説明ができ、それは水であると考えた。  
③ 世界は不死なる魂と美しい数的秩序の調和のうちにあると考えた。  
④ 世界は土・水・火・空気の離合集散から成り立っていると考えた。

問3 初期ギリシアの自然哲学者たちに関して、この哲学者たちの思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2003年追試)

- ① 事物は神である「一者」を根源として、そこから流出によって派生的に生成したのであり、人間は実在界と感覚世界との中間に位置する。  
② 事物は普遍的な理(ロゴス)に基づいて生成し、人間はこの理に従うことで情念に支配されない、理想の生き方を実現することができる。  
③ 事物は質料に内在する固有の形相が現実化していくことによって生成するが、

この世界それ自体は生成も消滅もせず、永遠に存続する。

- ④ 事物は多様な仕方でも生成するが、その根源には「空気」「水」といった構成元素が、本質において変わることのない原理として存在する。

問4 文章中の[ 1 ]に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
(2002年本試)

古来、偉大な哲学者や宗教家は、伝統的権威や既存の価値観などと対決しつつ、自らの思想を生み出してきた。古代ギリシアの思想家であるクセノパネスは、「死すべき人間どもは、神々が自分たちと同じような装いや声や姿をもって生まれ出たものと思っている」と述べ、ギリシア神話における[ 1 ]を批判している。ギリシアの哲学者たちは、当時の社会において支配的であった神話を批判することから出発して、神についても理性的な探究を行ったのである。

- ① アニミズム的な神観念                      ② 一神教的な神観念  
③ 理性主義的な神観念                      ④ 擬人的な神観念

問5 文章中の[ 1 ]に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
(2002年追試)

ギリシアでは、万物の根本原理を数であるとした[ 1 ]が、輪廻する魂を肉体から解放するために禁欲的な出家教団を創設した。

- ① タレス                                      ② ヘラクレイトス  
③ プロタゴラス                              ④ ピタゴラス

問6 古代ギリシアにおいて、「万物は流転する」ということばを残した思想家は誰か。次の①～④のうちから一つ選べ。(2000年追試)

- ① ヘラクレイトス                      ② ピタゴラス  
③ プロタゴラス                      ④ ストア派のゼノン

## 2 ソフィストからソクラテスへ

問7 ソフィストに関する記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

(2007年追試)

- ① 謝礼金をとる職業的教師として、青年たちに弁論術や一般教養を教えた。
- ② 社会制度や法律の由来をノモスとピュシスの対比によって説明した。
- ③ 相手との論争に打ち勝つことを目的とし、詭弁を用いるようになった。
- ④ 原子が虚空の中を運動し結合することで万物が形成されると考えた。

問8 文章中の□1に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(

2004年追試)

古代ギリシアには、言葉とその意味との関係は人間の作り出した規約(ノモス)に基づくという考え方があった。また、このような考え方とは別に、言葉は人間の思索活動によって明らかにされる事物の□1と結びついているとも考えられていた。ロゴスというギリシア語は、一般に、言葉そのものを意味すると同時に、人間の思索や問いかけの中で明確化される対象の<sup>ことわり</sup>理(ことわり)理を表していた。

- ① ヒュレー(ヒューレー)
- ② フェシス(フェシス)
- ③ パトス
- ④ ドクサ

問9 言葉とその意味との関係は人間の作り出した規約(ノモス)に基づくという考え方をする人々に例えばソフィストたちがいたが、その一人であるプロタゴラスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2004年追試)

- ① ロゴスを重視し、世界理性に従って、怒りや肉体的欲望などの情念を抑制する禁欲主義の立場にたって生きることを理想とした。
- ② 民主政治が墮落しつつあるアテネにおいて、自らの無知を自覚すること、すな

わち、いわゆる「無知の知」を哲学の出発点とした。

- ③ あらゆる物事の判断基準は、判断する人間それぞれにあるとし、各人の判断以外に客観的真理が存在することを否定した。
- ④ 万物の根本原理を「調和」の象徴としての「数」に求め、宗教と学術が一体となった教団を組織したが、当時の為政者に弾圧された。

問10 対話相手に自らの無知を自覚させるためにソクラテスが用いた方法の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2012年本試)

- ① 相手との問答を通して、相手の考えの矛盾を明らかにするという方法
- ② 神託に謙虚に従い、魂がそなえるべき徳に関する知へ誘うという<sup>いざな</sup>方法
- ③ 善に関する真理を教授し、知を愛することを手助けするという方法
- ④ 魂を主題とする問答を通して、互いの優れた考えを学び合うという方法

問11 文章中の□4に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

(2009年本試)

ギリシアでは、「大切にしなければならないことは、ただ生きることでなくて、よく生きることなのだ」という言葉で知られる□4が、「不正をなすこと、不正をし返すこと、……これらはいずれもいついかなる時にも間違っている」と言っている。

- ① クリトン
- ② ゴルギアス
- ③ ソクラテス
- ④ プロタゴラス

問12 ソクラテスの人生は、彼の友人から伝え聞いたデルフォイの神託によって決定づけられたと言われている。その神託の内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2008年本試)

- ① ただ生きるのではなく善く生きよ。
- ② 徳は知にほかならない。
- ③ おのれの無知を自覚せよ。
- ④ ソクラテス以上の知者はいない。

問 1 3 ソクラテスは自分の問答を産婆術(助産術)と呼んだ。それを説明する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2005 年本試)

- ① 産婆は妊婦の出産までの過程を熟知しており、妊婦に適切な出産法を教えることができる。対話相手は無知であるが、問答によってソクラテスから真理を教授されることにより、真偽を判断することができる。
- ② 産婆は高齢のため出産はできないが、妊婦の状態を見極めて、その赤子を取り上げることができる。ソクラテスは無知であるが、問答によって真偽を吟味しながら、対話相手自らの考えを引き出すことができる。
- ③ 産婆は高齢のため身ごもることはできず、出産を助けることだけができる。ソクラテスは無知であるが、問答によって対話相手の考えを引き出す手助けを学ぶことを通じて、無知から解放されるようになる。
- ④ 産婆の助けがないと妊婦の出産は困難であり、出産は両者の協同により成功する。ソクラテスも対話相手も無知であるが、問答によってお互いの不足を補いながら探究することにより、真理に到達できる。

問 1 4 ソクラテスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2005 年本試)

- ① デルフォイの神託がソクラテス以上の知者はいないと告げたことを誇りとし、問答によって人々に真理そのものを説いた。
- ② 神霊(ダイモン)を導入して青年たちを新しい宗教に引き込み、彼らを墮落させたと告発され、アテネを追放された。
- ③ 自らを「無知の知」に基づく知者と公言し、アテネにアカデメイアという学校を創設し、多くの弟子たちを教えた。
- ④ 「汝自身を知れ」というデルフォイ神殿の標語のもとに、問答法によって人々とともに知の探究に努めた。

問 1 5 【難】ソクラテスは問答法におけるロゴスの働きを重視した。ソクラテスのロゴ

スについての言及として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2004 年追試)

- ① 万物はロゴスに従って生じているのに、人々はそれに出会ったことがないかのようである。私が各事物を自然本性に従って分析し、その真の在り方を説明しているというのに。
- ② 私という人間は、自分で考慮してみても最善と思われるロゴス以外の他の何ものにも従わない。だから、今この場でもっとよいロゴスが提出されないかぎり決して譲歩しないだろう。
- ③ はじめにロゴスがあった。ロゴスは神であった。万物はロゴスによって成った。ロゴスによらずに成ったものは何一つなかった。ロゴスのうちに命があった。命は人間を照らす光であった。
- ④ 動物の中で人間だけがロゴスをもつ。ロゴスは人間に利と不利を、したがってまた正と不正を表示する。なぜなら、人間だけが善悪、正と不正などを知覚できるからである。

問 1 6 【難】プラトンの対話篇に登場する人物が「無知の自覚」を表明したものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2003 年追試)

- ① ソクラテスは相手に対して質問するばかりで、自分の方からは何一つ答えようとしない。答えるよりも問うことの方が簡単だということをよく知っているものだから、誰かに質問されると空とぼけて、あれこれ言いつくろっては答えるのを避けるのだ。
- ② ソクラテスは自ら困難に行き詰まっては、他人も行き詰まらせてしまう。これまで大勢の人々に向かって徳について私が語ってきた話は、自分では立派な内容だと思っていた。ところが、今では徳とは何かということさえ語るができなくなった。
- ③ 対話問答を通して議論を進めていくソクラテスの熱意は、称賛に値する。私は悪い人間ではないし、また私ほど嫉妬心から縁遠い人間はいないので、ソクラテ

すが知恵にかけて有数の人物の一人になったとしても、決して驚かないだろう。

- ④ ソクラテスという人は、いつもこうなのだ。ほとんど取るに足らないような事柄を問い返しては、相手を反駁しようとする。もし誰かが何事につけてもこの人の言うことに同意してやったなら、この人ときたら、まるで若者のように大喜びするに違いない。

問 1 7 古代ギリシャの哲学者の一人としてソクラテスが挙げられるが、その思想内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2002 年本試)

- ① 人間はポリス的動物という本性に従って社会生活を営む存在であり、正義と友愛の徳もポリスを離れては実現しないと考えた。
- ② 対話的方法を通して自己の魂のあり方を吟味していくことが、「よく生きること」の根本であると主張した。
- ③ 自然と調和して生きることを理想とし、自然を貫く法則性と一致するように意志を働かせることによって魂の調和が得られると説いた。
- ④ 富や権力や名誉などの外面的なものや社会規範といったものを軽蔑し、自然に与えられたものだけで満足して生きる生活を理想とした。

問 1 8 文中の 2 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2001 年追試)

もとより、杓子定規に欲望を抑制すれば、それですべて問題が解決するというわけではない。大切なのは、ソクラテスが 2 と呼ばれる対話的方法で示したように、どのような欲望をどのようなかたちで充足するのかを自覚的に吟味することである。

- ① 読心術      ② 助産術      ③ 建築術      ④ 航海術

問 1 9 ソクラテスの死に関するプラトンの記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2005 年追試)

- ① ソクラテスは、青年を墮落させたという告発を恥すべきことと考え、自己の名

誉を重んじたために、毒杯を仰いだ。

- ② ソクラテスは、無実の罪で自分を死に追いやろうとするポリスの現状を恥ずかしく思い、抗議のために毒杯を仰いだ。
- ③ ソクラテスは、国法を破ることは不正であり、不正を犯すことは恥すべきことと考えて毒杯を仰いだ。
- ④ ソクラテスは、友人クリトンまでが「無実の罪で刑に服することは恥だ」と脱獄をせまったことに失望して毒杯を仰いだ。

問 2 0 カリクレスは、次のような議論を展開している。それを踏まえたうえで、カリクレス的な立場に合致する記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2001 年追試)

世の中の大多数の弱者（能力の劣った者）は、強者（能力の優れた者）から自分たちの利益を守るために、他者より多く所有することは不正である、という平等主義的な法律や慣習をつくりだした。しかし、弱肉強食の動物の世界を見ればわかるように、強者が弱者を支配し、より多く所有するのが、自然本来のあり方であり、真の正義である。

- ① 絵の上手な人と歌の上手な人との能力差は比較できないので、各人の優劣は客観的に数値化された学力差によって決めるべきである。
- ② 小学生の徒競走で足の速い生徒にハンディキャップをつけるのは、競争原理の否定につながり、理不尽である。
- ③ 多数決原理を基本とする民主主義であっても、自分の政策を実現するためには「数の力」だけに頼らずに、少数意見にも耳を傾けるべきである。
- ④ プロのスポーツ選手や人気歌手がときに数億円もの報酬をもらうのは、人間の金銭感覚を麻痺させる異常な事態である。

### 3 プラトンとイデア

問2 1 文章中の□4に入る語句として正しいものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。(2011年本試)

プラトンは、『□4』において、魂は死とともに霧散するのではないかという不安の声への応答として、魂が不死であることの証明を試みた。

- ① クリトン
- ② ニコマコス倫理学
- ③ イリアス
- ④ パイドン

問2 2 プラトンが魂について論じた内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2011年本試)

- ① 人間の魂は死後に肉体から解放されてはじめてイデアを見ることになるとし、イデアへの憧れ(エロース)が哲学の原動力であると論じた。
- ② 人間の魂は生まれる以前にイデアを見ていたとし、感覚的事物を手がかりとしてイデアを想起すること(アナムネーシス)ができることと論じた。
- ③ 人間の魂を国家と類比的に捉え、個々人の魂に正義の徳が具わるためには、国家全体の正義を確立することが必要であると論じた。
- ④ 人間の魂を理性、気概、欲望の三つの部分に分けて捉え、これら三部分が互いに抑制し合うことで正義の徳が成立すると論じた。

問2 3 イデアに関して、プラトンの考え方に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2010年本試)

- ① イデアは個物に内在する真の本質であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉えることができる。
- ② イデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉

えることができる。

- ③ イデアは個物に内在する真の本質であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。
- ④ イデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。

問2 4 プラトンはこの世における知識の獲得を想起説によって説明している。その想起説についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2009年追試)

- ① 知識の獲得とは、この世を去る際に身体から解放された魂が、この世で起きたことをイデアを通して思い起こすことである。
- ② 知識の獲得とは、この世を去る際に身体から解放された魂が、自分は何も知らないという無知を思い起こすことである。
- ③ 知識の獲得とは、この世に誕生する際に身体に閉じ込められた魂が、不動の動者である神を観想によって思い起こすことである。
- ④ 知識の獲得とは、この世に誕生する際に身体に閉じ込められた魂が、もともと見知っていたイデアを思い起こすことである。

問2 5 プラトンが説いたエロースを説明する語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2001年追試)

- ① 男女間の性的な欲望
- ② 自己犠牲的な愛
- ③ 善美なものへの憧れ
- ④ 快楽主義的な生

問2 6 プラトンのいう「愛(エロース)」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2005年追試)

- ① 個々の美しいものや善いものを超えて、善美そのものを追い求めようとする情

熱のことである。

- ② 異性をひたすら精神的にのみ愛し肉体的な結びつきは徹底的に排そうとする、清浄な情熱のことである。
- ③ 精神的な価値観を共有する者に対して感じる友情のことであり、友のためには死をも辞さない心情のことである。
- ④ 究極的な一者から人間に与えられた愛のことであり、究極的な一者に全面的に帰依する心情のことである。

問27 文章中の [A]・[B]に入れるのに最も適当な組合せを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。(2007年本試)

プラトンの魂の三部分説によると、怒りの座たる [A] 的部分は、適切な教育を受け、[B] 的部分の指導に従えば、徳ある行為に役立つとされる。

- ① A 理性 B 気概      ② A 理性 B 欲望
- ③ A 気概 B 理性      ④ A 気概 B 欲望
- ⑤ A 欲望 B 理性      ⑥ A 欲望 B 気概

問28 プラトンは、洞窟の<sup>ひ</sup>比喩を用いて彼の思想を説いた。その比喩の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2006年本試)

- ① 多くの人々は、魂が肉体から解放されるまで、快楽や欲望の束縛から脱することができない。それはちょうど、囚人が洞窟の中に死ぬまで縛りつけられて逃げられないのと似ている。
- ② 多くの人々は、個人的な生活にしか目を向けず、社会的理想を追求しようとはしない。それはちょうど、洞窟の中で生活している人々が、そこでの生活に安住し、洞窟の外に出て理想国家を建設しようとしなれないのと似ている。
- ③ 多くの人々は、普遍的な真理など存在せず、相対的にしか真理は語れないとす

る。それはちょうど、人々がそれぞれの洞窟の中でそれぞれの基準で真偽を判断し、その正否に他人は口を出せないのと似ている。

- ④ 多くの人々は、<sup>つな</sup>感覚されたものを実在だと思い込んでいる。それはちょうど、洞窟の壁に向かって繋がれている囚人が、壁に映った背後の事物の影を実物だと思い込んでしまうのと似ている。

問29 文中の [1] に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2000年本試)

ソクラテスは勇気や正義などについて、それらは一体「何であるのか」と問うていく。その問答を通じて、対話者たちの生き方がさらけ出されることになる。プラトンが描く [1] の類比は、ソクラテスが問うたものが人間のあり方のよさであるとともに、国制のよさでもあることを物語っている。

- ① 家と国                      ② 人間のアイデアと善のアイデア
- ③ 魂と国家                    ④ 一人の利益と全体の利益

問30 プラトンは、魂の三部分の関係に基づいて国家のあり方を説明した。彼の国家についての思想として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2005年本試)

- ① 一人の王の統治は、知恵を愛する王による統治であっても、つねに独裁制に陥る危険を<sup>はら</sup>孕んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵・勇気・節制を身につけ、民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。
- ② 統治者階級は、知恵を身につけ、防衛者階級を支配し、防衛者階級は、勇気を身につけ、生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従い節制を身につけたとき、国家の三部分に調和が生まれ、正義が実現する。
- ③ 知恵を愛する者が王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が、勇気を身につけた防衛者階級と節制

を身につけた生産者階級とを統治するとき、正義が実現する。

- ④ 知恵を身につけた統治者階級が、防衛者階級に対しては臆病と無謀を避け勇気を身につけるよう習慣づけ、生産者階級に対しては放縱と鈍感を避け節制を身につけるよう習慣づける。このようなときに正義が実現する。

問3 1 プラトンの主張の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2001 年本試)

- ① 真理は、普遍的なものとして客観的に存在するのではなく、判断を下す個々の人間と事物との相対的な関係に依存する。  
② 善悪を決定するのは個人の快・不快であり、至高の価値は、公共生活から退くことによって魂が永続的に安定するところにある。  
③ 人間の最高の幸福は、理性の純粋な活動によって、個々の事物に内在する形相のあり方を観想することである。  
④ 個々の事物は真の実在の影にすぎないが、人間の魂はかつて真の実在の世界に住んでいたの、それを想起することで真理を把握できる。

問3 2 プラトンの正義についての考えを説明した記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2001 年本試)

- ① 人間の魂は理性・気概・欲望の三つの部分からなり、これら魂の各部分が相互に調和を保つなら、個人にとっての正義の徳が実現される。  
② 国家には統治者・防衛者・生産者のという三つの階級があり、人間はそれぞれの資質にふさわしい階級に属するべきである。  
③ 哲人・軍人・庶民がそれぞれ知恵・勇気・節制いずれかの徳を発揮しつつ相互に調和し合うことによって、理想国家が実現される。  
④ 国家の正義と個人の正義は、階級の違いを越えて相互に人間を結びつける契約によって、調和が保たれる。

## 4 アリストテレスとヘレニズム思想

問3 3 我々は他者との関係のなかで生きていることに関連して、アリストテレスが述べた言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2009 年追試)

- ① 自然に従って生きよ。  
② 人間はポリスの動物である。  
③ 万物は流転する。  
④ 人間は万物の尺度である。

問3 4 『ニコマコス倫理学』において人間固有の働きの中でも最高の働きと評価される「テオリア」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2004 年本試)

- ① テオリアとは、原理を直観的に把握する理性の働きである。  
② テオリアとは、主に制作活動にかかわる理性の働きである。  
③ テオリアとは、厳密な論証・推論としての理性の働きである。  
④ テオリアとは、主に行為・実践を導く理性の働きである。

問3 5 自然の事物に関するアリストテレスの思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2002 年追試)

- ① 眼前の花が美しいのは、その花の個体としての色や形のゆえではなく、その花が永遠の「美そのもの」にあずかることによる。  
② 動植物に様々な種が存在しているのは、種類ごとに固有な形相が各個体に内在し、それが発現してくることによる。  
③ 生物を含むすべての事物のあり方が個体ごとに異なるのは、それを構成する原子の形態と配列と位置が異なることによる。  
④ 事物全体は永遠の火として存続するが、個体ごとに変化していくのは、そこにおいて相互に対立する力のうち一方が他方に優越することによる。

問36 アリストテレスの説いた徳についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2010年追試)

- ① 魂の<sup>そな</sup>具えるべき徳についての正しい知識をもてば、その知に導かれて善く生きることができるとした。
- ② 信仰、希望、愛の三つを基本的な徳であるとし、なかでも、人間の意志を動かすものとしての愛を重視した。
- ③ 人間の魂が具えるべき徳を、知性の働きに<sup>かか</sup>関わるものと習慣づけによって形成される性格に関わるものに分けた。
- ④ 徳とは、宇宙全体と調和して生きるために理性や意志によって欲を抑制する禁欲主義的な力であるとした。

問37 古代ギリシアの思想家アリストテレスの主張の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2008年追試)

- ① 人間にとって最高に幸福な生活とは、観想によって把握された真理に基づいて政治的実践を営む生活である。
- ② 真の友愛は、自分にとっての快楽や有用性のみに基づくものではなく、善き人々の間で相手のために善を願うものである。
- ③ 個物から離れて実在する超越的な形相が、感覚的な質料と結びつくことによって、この世界の様々な事物が生成する。
- ④ 各人の判断こそが善や正義などの基準であり、自らの経験と観察を重んじることによって知識が得られる。

問38 文中の [A]・[B] に入れる語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2001年本試)

古代ギリシャは、正規の構成員たる「市民」によって自立的に運営される共同体（ポリス）からなっていた。そのポリスにおいて人類史上はじめて「民主制」という政治形態

が出現した。ポリスに住まう人間の倫理を追究したアリストテレスにとって、正義は、まさしく「等しさ」を保障することを意味していた。彼はこれを、各人の働きに応じて名誉や報酬をあてがうことで「等しさ」を実現する [A] と、商取引や裁判において当事者相互の利害と得失を勘案して「等しさ」を回復する [B] とに分けたのであった。

- |                |              |
|----------------|--------------|
| ① A 配分的正義      | B 調整的（矯正的）正義 |
| ② A 調整的（矯正的）正義 | B 配分的正義      |
| ③ A 部分的正義      | B 全体的正義      |
| ④ A 全体的正義      | B 部分的正義      |

問39 アリストテレスの「調整的正義（矯正的正義）」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2009年本試)

- ① 各人の業績を精査し、それぞれの成果に応じて報酬を配分すること
- ② 加害者を裁いて罰を与え、被害者に補償を与えて公平にすること
- ③ 知性的徳を備えた人が習性的徳を備え、完全に正しい人になること
- ④ 法的秩序を保ち、人間として正しい行為をする状態に市民を導くこと

問40 アリストテレスの思想に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2006年追試)

- ① 互いに異なる国々の慣習や文化を比較して、自国の諸制度に合わせて取り入れる調整的正義を説いている。
- ② 共同体的存在である人間が、社会における役割分担を推進するために必要とされる配分的正義を説いている。
- ③ 取引や裁判などにおいて、各人の利害や得失の不均衡を公平になるように是正する調整的正義を説いている。
- ④ 理性の徳としての知恵、気概の徳としての勇氣、欲望の徳としての節制が均等である配分的正義を説いている。



問 4 1 知性的徳である思慮と習性的徳との関係を説明する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2004 年追試)

- ① 習性的徳は、思慮が示す中庸を繰り返し選ぶことで形成される。
- ② 習性的徳は思慮を完成させるので、思慮よりも上位の徳である。
- ③ 習性的徳は、真理認識だけにかかわる思慮を原因として形成される。
- ④ 習性的徳は身体に帰属するので、思慮の動きを妨げることがある。

問 4 2 文章中の□ 1 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2003 年本試)

中庸を尊ぶ考え方は、人間のより善い生き方を模索した思想家たちの間に広く見られる。例えば古代ギリシアのアリストテレスも、□ 1 としての生き方を論じた著作の中で中庸について述べている。

- ① 世界市民
- ② 選ばれた民の一人
- ③ 市民共同体の一員
- ④ 支配階層の構成員

問 4 3 アリストテレスが用いている中庸の例の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2007 年本試)

- ① 恐れるべきものとそうでないものを正しく判断できるように知的訓練を積むことで、勇気のある人になる。
- ② 金銭や財に関して、必要以上に惜しんだり浪費したりしないよう習慣づけることで、おおらかな人になる。
- ③ 神の知をもっていないと自覚することで、最大の無知から解放され、人間にふさわしい知恵を得ることができる。
- ④ 極端な快楽と極端な禁欲を避けながら、静かな修道生活を送ることで、心の平安を得ることができる。

問 4 4 アリストテレスは感情や行為にかかわる「中庸」の徳とそれに対応する過剰と不

足の悪徳を具体的な例によって説明している。その組合せとして適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2003 年本試)

- |   |                      |     |                      |
|---|----------------------|-----|----------------------|
|   | 過 剰                  | 中 庸 | 不 足                  |
| ① | 放 縦 <sup>ほうしゅう</sup> | 節 制 | 鈍 感                  |
| ② | 道 化                  | 機 知 | 野 暮                  |
| ③ | 虚 栄                  | 自尊心 | 卑 屈                  |
| ④ | 無 謀                  | 正 義 | 臆 病 <sup>おくびょう</sup> |

問 4 5 人間の魂は「善そのもの」「美そのもの」といった超越的なアイデアを観ることに  
よって、自らを真実の存在へと形作るというプラトンの立場に対して、アリストテ  
レスは自己実現としての人間の幸福を別の仕方論じている。アリストテレスの幸  
福についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2003  
年追試)

- ① 人間の幸福とは苦痛によって乱されることのない魂の平安であり、これを実現するには、公的生活から離れ、隠れて生きるべきである。
- ② 人間の幸福とは肉体という牢獄から魂が解放されることであり、これを実現するには、魂に調和と秩序をもたらず音楽や数学に専心すべきである。
- ③ 人間の幸福とは自己自身への内省を通して、宇宙の理と通じ合うことにあり、そのためには自らの運命を心静かに受け入れることが大切である。
- ④ 人間の幸福とは行為のうちに実現しうる最高の善であり、これを実現するためには、よき習慣づけによる倫理的徳の習得が不可欠である。

問 4 6 ストア派のアパテイアの説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2013 年本試)

- ① 自然に従って生きること、魂が完全に理性的で調和したものとなり、欲望や快楽などの情念によって動かされない状態。
- ② 情念や欲望が理性の命令に聞き従うことで、魂の三部分間の葛藤<sup>かっとう</sup>や分裂が克服

され、心が全体として理性によって制御された状態。

- ③ 過剰な情念に満たされることと、情念に心が少しも動じないことの中庸として見いだされる、有徳な人間にふさわしい適度な情念をもった心の状態。
- ④ 苦しみや悲しみなどが取り除かれて、心のうちに快樂が得られることによって、魂が浄化された平静な状態。

問 4 7 誕生時の星の配置がその人の運命を示すという考え方を支持した思想の一つとして、ストア派の哲学が挙げられる。ストア派の世界観の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2011 年追試)

- ① この世界のあらゆる事物は、万物の構成原理である数の比例関係に基づいて生じる。
- ② この世界のあらゆる事象は、無数に存在する原子(アトム)の離合集散によって生じる。
- ③ この世界のあらゆる事物は、永遠不滅の真の実在であるアイデアを原型として生じる。
- ④ この世界のあらゆる事象は、世界に内在する理法(ロゴス)の支配にしたがって生じる。

問 4 8 ストア派の人々が説いた「自然に従って生きよ」とは何を意味するのか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2010 年本試)

- ① 文明化された都市においては理性的な判断を惑わすものが多いため、自然の中で魂の平静を求めて生きよ、という意味
- ② 感情に左右されやすい人間の理性を離れ、自然を貫く理法に従うことにより、心の平安を得て生きよ、という意味
- ③ 人間の理性を正しく働かせ、自然を貫く理法と一致することで、心を乱されることなく生きよ、という意味

- ④ 人間の理性を頼みとして努力をするのではなく、自然が与えるもので満足することを覚えよ、という意味

問 4 9 エピクロスが提唱した生活信条として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2009 年本試)

- ① 感情を乱す原因を避けて隠れて生きることによってアタラクシアを求め、安らかに暮らす。
- ② 極端な感情を避けて適切に選択できるメソテースの獲得と保持を求めて暮らす。
- ③ 美にあこがれるエロースの感情に突き動かされて、ひたすら美を求めて暮らす。
- ④ 欲望を抑えていかなる感情にも心を動揺させることのないアパテイアを目指して暮らす。

問 5 0 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。(2008 年追試)

ヘレニズム時代のストア派は、美しい調和のとれた  の原理である理性に<sup>あずか</sup>与っている限り、万人は平等だと主張し、世界市民の思想を基礎づけた。

- ① アイデア
- ② エロース
- ③ カリタス
- ④ コスモス

問 5 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2007 年本試)

仏教の開祖ゴータマ=ブッダは「怒りを捨てよ。慢心を除き去れ」と語り、解脱を求める者は怒りを捨て去るべきことを説いた。ストア派も、『怒りについて』の著者  を始め、怒りなどの感情を理性によって除去する点に徳の成立を認めている。個人の静穏な生活を重んじるこれら二つの思想は、魂の平安をかき乱すという理由で、怒りに否定的評価を下している。

- ① アウグスティヌス                      ② エピクロス
- ③ セネカ                                      ④ プロティノス

問52 ヘレニズム時代になって提唱された哲学・思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2007年追試)

- ① 戦乱により崩壊したポリスに縛られることなく、個人の内面に目を向け、人間の幸福は魂の自由と平安にある、とする考え方。
- ② 知恵の徳を具えた哲学者が、善のアイデアを基準にして国家を正しく治めることにより、国家の正義が実現される、という考え方。
- ③ 魂の徳が何であるか、その定義を知ることによって、徳を具えると同時に幸福な人になりうる、という考え方。
- ④ 自然現象の根底に存在する不変の原理であるアルケーを、ロゴスによって探求すべきだ、とする考え方。

問53 ストア派の生活信条として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2005年本試)

- ① 各人は情念に動かされることなく、すなわち、自然に従って理性的に生きるべきである。
- ② 各人は富や権力や健康など、外面的なものを頼りにせず、できるだけ何も持たないで生きるべきである。
- ③ 各人は精神的な快樂を保つために、政治や公共生活への参加を避け、隠れて生きるべきである。
- ④ 各人はポリスの動物であり、ともに善い人間になることを目指す友愛を重んじて生きるべきである。

問54 文章中の□1に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

(2004年本試)

倫理というものを考える上で、「善とは何か」という問いは根本的である。およそ倫理的な行為は善に関する何らかの判断をもとにするからである。ギリシアの哲学者ソクラテスはただ生きるのではなく、自己の魂を善いものとするので善く生きることを探究した。「一体、善とは何か」という問いに対して彼の弟子プラトンは魂の善を探究する道を進め、「善のアイデア」と魂のかかわりによってこれに答えようとした。アリストテレスは善を人間の自然本性に基づく魂の内的働きと捉え、善のアイデアに代えて万人の希求する善としての「幸福」の実現を目指した。さらに□1は、様々な情念から解放され、外部の何ものにも煩わされない魂の状態を善と捉え、理想とした。

- ① ヘラクレイトス                      ② アナクシマンドロス
- ③ ストア派のゼノン                      ④ タレス

問55 機械論的自然観の古代における先駆者の一人としてエピクロスがいる。エピクロスの倫理思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2004年本試)

- ① 美のほとんどが便宜・効用という観念から生まれるのだから、快樂や苦痛は、美や醜の観念に必然的に伴うだけでなく、美や醜の本質をなす。
- ② いかなる快樂をも貪る人は放埒だし、あらゆる快樂を遠ざける人は逆に無感な人になる。私たちは、双方の中庸である節制を目指すべきである。
- ③ 快樂や苦痛は、その強さ、持続性、確実性、遠近性などと、それが及ぶ人々の数を考慮に入れることによって、その総計を計算することができる。
- ④ 私たちが人生の目的とすべき快樂は、放蕩者の快樂でも性的な享樂でもなく、身体に苦痛のないことと、魂に動揺のないことにほかならない。

問56 文中の□1に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

(2001 年追試)

ストア派のゼノンは、1と呼ばれる心の平静な状態を理想とし、欲望や快苦に惑わされない生き方とはどのようなものであるかを思索した。

- ① アパテイア      ② アタラクシア  
③ アルケー      ④ アナムネーシス

問 5 7 占いに対する哲学者の賛否両論を紹介するキケロの著作では、占いに対する賛否双方の立場から、様々な哲学者の議論が引かれている。次のア～ウは、そこに登場する哲学者についての記述であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2011 年追試)

ア 紀元前 585 年の日食を予言するなど、天文学や幾何学に通じ、自然について合理的説明を与えることを試みたと伝えられている。

イ デルフォイの神託をきっかけとして哲学的対話の活動を始め、ダイモーンの声<sup>たれ</sup>を聞いて自らの行動を律したと言われている。

ウ 神々の摂理を否定することによって、迷信などがもたらす心の動揺から解放される<sup>たれ</sup>ことが、真の快樂を得るために不可欠であると論じた。

- ① ア ピタゴラス      イ ソクラテス      ウ エピクロス  
② ア タレス      イ プラトン      ウ ゼノン  
③ ア ヘラクレイトス      イ ソクラテス      ウ ゼノン  
④ ア ピタゴラス      イ プラトン      ウ プロティノス  
⑤ ア タレス      イ ソクラテス      ウ エピクロス  
⑥ ア ヘラクレイトス      イ プラトン      ウ プロティノス

## 5 源流思想総合問題

問58 古代ギリシア・ローマでは様々な仕方で善について考えられてきたが、その説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2012年本試)

- ① ストア派は、宇宙を貫く理法(ロゴス)に従って生きることによって得られる精神的快楽を幸福とみなし、この幸福を最高善として理解した。
- ② プロタゴラスは、最高の真実である善そのものを万物の尺度とみなし、それを認識した哲学者が国家を支配すべきであると説いた。
- ③ アリストテレスは、理性を人間に固有の能力とみなし、人間にとっては理性に基づく魂の優れた活動こそが最高善であると考えた。
- ④ エピクロスは、物事の尺度は相対的なものであり、各人ごとに異なるため、善についての普遍的な判断というものはないと主張した。

問59 占いに対する哲学者の賛否両論を紹介するキケロの著作では、占いに対する賛否双方の立場から、様々な哲学者の議論が引かれている。次のア～ウは、そこに登場する哲学者についての記述であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2011年追試)

- ア 紀元前585年の日食を予言するなど、天文学や幾何学に通じ、自然について合理的説明を与えることを試みたと伝えられている。
- イ デルフォイの神託をきっかけとして哲学的対話の活動を始め、ダイモーンの声聞いて自らの行動を律したと言われている。
- ウ 神々の摂理を否定することによって、迷信などがもたらす心の動揺から解放されることが、真の快楽を得るために不可欠であると論じた。
- ① ア ピタゴラス      イ ソクラテス      ウ エピクロス
  - ② ア タレス          イ プラトン        ウ ゼノン
  - ③ ア ヘラクレイトス    イ ソクラテス      ウ ゼノン
  - ④ ア ピタゴラス      イ プラトン        ウ プロティノス

- ⑤ ア タレス          イ ソクラテス      ウ エピクロス
- ⑥ ア ヘラクレイトス    イ プラトン        ウ プロティノス

問60 古代ギリシア・ローマでは欲望をめぐって様々な考察がなされてきた。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2012年追試)

- ① ソクラテスは、魂のそなえるべき徳が何かを知ればその知を利用して、手段を選ばずあらゆる欲望を満たすことができるので、徳の知を追い求めていくべきだと説いた。
- ② プラトンは、人間の魂の三部分を二頭の馬とその御者に譬え、欲望的部分が御者として、理性的部分と気概的部分をあらわす二頭の馬を導いていくという人間の自然本性の姿を描いた。
- ③ アリストテレスは、欲望や感情に関わる倫理的徳のみに従うことと、知性や思慮に関わる知性的徳のみに従うこととの両極端を避け、両者の中庸を選択するような性格を身につけるべきであると説いた。
- ④ エピクロスは、快楽が人間にとっての幸福であるとみなしたが、その快楽とは、自然に必要な欲望を節度ある仕方で満たし、身体の苦痛や魂の動揺から解放された状態のことであると考へた。

問61 先哲たちの死に対する洞察に関連して、次のア～ウはそれぞれ誰の思想についての記述か。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2011年本試)

- ア 人の生は仮の宿のようなものであり、虚無から生まれ虚無へと帰るため、生の長短など、あらゆる相対的価値に囚われてはいけぬ。
- イ 人は業によって輪廻を繰り返すのであるが、不殺生などの戒めを守って苦行を重ね、悪業をなさないようにすることで輪廻から解放される。
- ウ 身体が減れば魂も飛散するため、生きている間は死に出会わず、死が来た時には私たちはもういないのだから、死を恐れる必要はない。
- ① ア 墨子      イ ナーガールジュナ      ウ エピクロス
  - ② ア 荘子      イ ヴァルダマーナ        ウ エピクロス

- ③ ア 孟子    イ ナーガールジュナ    ウ エンペドクレス
- ④ ア 孟子    イ ヴァルダマーナ    ウ アリストテレス
- ⑤ ア 荘子    イ ナーガールジュナ    ウ アリストテレス
- ⑥ ア 墨子    イ ヴァルダマーナ    ウ エンペドクレス

問62 愛をめぐる様々な思索について述べた次の文章を読み、文章中の a ~ c に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑥のうちから一つ選べ。(2013年本試)

プラトンの説く愛(エロース)が、具体的な美への <sup>あこが</sup>憧れを経て完全な美そのものの a へと向かわせる愛であるのに対して、アリストテレスの説く真の友愛(フィリア)は、b のために b にとっての善を願い、その実践へと向かわせる愛である。他方、『新約聖書』における愛(アガペー)とは、第一に、無条件にすべての人に与えられる無償の神の愛のことであり、次いで、それによって引き起こされた人間による c への愛を意味する。

- ① a 観想    b 親しい人    c 自己
- ② a 創造    b 親しい人    c 他者
- ③ a 観想    b 親しい人    c 他者
- ④ a 創造    b すべての人    c 自己
- ⑤ a 観想    b すべての人    c 自己
- ⑥ a 創造    b すべての人    c 他者

問63 倫理を専ら社会的な規制や規範として語り、それらを形式的に守ることのよしあしだけを論じるならば、我々は社会のあり方と自己との結びつきを断ち切り、人と人との関係のあり方を見失うことになるのではないだろうか。このような問いかけに関して、先哲たちの営みはそれぞれどのようなものであったか。彼らの営みとして最も適当なものを、次の①~⑧のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ソクラテスについては 5 に、孔子については 6 に、ブッダについては 7 に、イエスについては 8 に答えよ。(2000年本試)

- ① 若いころから様々な知識や技能を習得し、博識の学者となったが、何でも知る

ことをよしとしたのではなく、知るということは知っていることを知っていることとし、知らないことを知らないこととすることだと教えた。

- ② 多神教を背景とする部族社会に生じた不公正な富の配分や利己主義の蔓延<sup>まんえん</sup>を批判し、富裕な支配者層からの迫害を受けながらも、終末の審判を行う唯一神への信仰を説き、その信仰に基づく共同体の建設に努めた。
- ③ 苦しみ、傷つきながら生きている人々の声に応えて、自己中心的な生き方を越え互いに分け隔てなく愛し合うことを教え、日常的であるが故に形式的な遵守にかたむきがちであった規範を根本的に問い直した。
- ④ 人が苦しみを厭<sup>いと</sup>いながら苦しみを重ねていくのは、すべては依存しあって成立しているという真理について無知であるためだと考え、この真理を正しく知り他者に対しても慈<sup>いつく</sup>しみの心を起こすべきだと諭した。
- ⑤ 人間は社会的動物であると考え、よき市民がもつべき倫理的な徳は、過多や過少に陥らない行為を反復することによって形成されると論じ、現実的な視点から社会において友愛や正義が果たす役割を考察した。
- ⑥ 秩序の解体の危機に接して、親しい人への自然な愛を人間関係の基本として秩序に主体的に従うことが追求されるべきだと考え、正しい人が人々の上位に立つならば民衆は和合してその人に付き従うと説いた。
- ⑦ 苦行を通じて自己と絶対者との一体化に至ることが一切の苦悩からの解放の道であるという教えに対して、人生の苦しみの原因は自己に執着することにあると考え、恒常不変の自我という存在を否定した。
- ⑧ よく生きることは正しく生きることであるという前提に立って、国法に従うことを正しいと自ら同意したのであるから、その同意を破るべきではないと述べ、不当な判決には服すべきではないと説く友人の言葉を退けた。

問64 それぞれの思想・宗教が語っている道徳についての説明として **適当でないもの** を、次の①~④のうちから一つ選べ。(2000年追試)

- ① ブッダは、正しい知恵を得るために、正しく生活し、正しく修行すべきことを、

八正道として説いた。そのうち最初に挙げられる、<sup>しょうけん</sup>正見が正しい知恵にあたる。

- ② 孔子は、親への孝、兄への悌は倫理の基礎であるとした。それらをもとにまごころを尽くして人々を慈しむことが仁であり、それをさまざまな人間関係に押し広める人が君子である。
- ③ ソクラテスは、完全な友愛を通じて人と人が和合するとき、個人のよく生きることが実現すると考えた。したがって、共同体におけるよりよき生のためには、正義だけでは十分ではなく、友愛が必要とされる。
- ④ イエスは、神から万人に注がれる無償の愛に<sup>こた</sup>応えて、隣人愛を実践するように説いた。この隣人愛の教えは「何事でも自分のしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにせよ」と表現される。

問65 キケロは、その著作『老年について』において、人生に関して次のような考え方を伝えている。この考え方に合致する記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。(2006年本試)

少なくともわしの見るところでは間違いなく、<sup>すべ</sup>全ての仕事に満ち足りることが人生に満ち足りることになる。少年期には少年期の仕事がちゃんとあるが、だからといって青年がそれを愛惜するだろうか。青年期の入口にある仕事を中年と呼ばれるすでに安定した世代が追い求めるであろうか。中年期にももちろん仕事があるが、老年になってそれが欲しがられたいはしない。そして老年にはいわば最後の仕事がある。それ故、前の各年代の仕事が消えていくように、老年の仕事も消えてなくなるのだ。そしてそうなった時には、人生に満ち足りて死の時が熟するのである。

- ① 人の一生は春夏秋冬の四季に<sup>たと</sup>喩えることができる。春には春の、冬には冬の特質があり、他の季節にはないものである。それぞれの季節の特質はその季節において実現されるように、少年期を始めそれぞれの時期になすべきことをなしていくのが、善き生である。
- ② 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。春と秋は過ごしやすい好ま

しい季節であり、夏と冬は過ごすのに困難を伴う季節である。そのように人の一生も浮き沈みがあるが、それぞれの期間、どんな境遇にあっても全力を尽くすことが、善き生である。

- ③ 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。一年が春夏秋冬で終わるように、人の一生も春夏秋冬で終わる。若くして死ぬ人にも、長命の人にもそれぞれの春夏秋冬があるのである。いつ死を迎えるにせよ、与えられた期間精一杯生きることが、善き生である。
- ④ 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。春の後に夏が来るように季節の順序は定まっています、逆になることはない。そのように人の一生も一方向に向かって進行し、後戻りすることはないのだから、どの時期にあってもつねに将来に向かって努力することが、善き生である。

問66 社会契約説は国家や社会についての代表的な理論の一つであるが、西洋ではそのほかにも様々な国家論、社会論が説かれてきた。次のア～ウの思想を唱えた人物として最も適当なものを、下の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選べ。アについては[15]に、イについては[16]に、ウについては[17]に答えよ。(2002年本試)

- ア 家族と市民社会を総合し、欲望の体系である市民社会を克服するのが国家であり、そこにおいて共同体の普遍性と個人の個別性が保持される。
- イ 理想的な国家を実現するためには、哲学者が統治者になるか、あるいは統治者が哲学者になる必要がある。
- ウ 個人が自己の利益を自由に追求することで社会全体が豊かになるのだから、国家の重要な役割は個人が自由に獲得した財産を保護することにある。

- ① プラトン    ② アリストテレス    ③ ロック  
④ ルソー    ⑤ アダム・スミス    ⑥ カント  
⑦ ヘーゲル    ⑧ マルクス





問1 ④  
問2 ② ①ヘラクレイトス ③ピタゴラス ④エンペドクレス  
問3 ④ ①新プラトン主義のプロティノス ②ストア派 ③アリストテレス  
問4 ④  
問5 ④  
問6 ①  
問7 ④ ④はデモクリトス  
問8 ② ノモス（社会のロゴス）⇔フュシス（自然のロゴス）と考える。  
問9 ③ ①ストア派 ②ソクラテス ④ピタゴラス  
問10 ①  
問11 ③  
問12 ④  
問13 ②  
問14 ④  
問15 ② ①自然哲学者 ③新約聖書ヨハネ伝 ④プラトン  
問16 ② ソクラテスの思想はどれと考えると迷う。相手が「『無知の自覚』を表明した」選択肢を選ぶ。  
問17 ② ①アリストテレス ③ストア派 ④キュニコス派のディオゲネス  
問18 ②  
問19 ③  
問20 ②  
問21 ④ ①「クリトン」はプラトンがソクラテスの死刑前夜を描いた作品。ソクラテス思想を知る資料 ②はアリストテレス ③はギリシャ叙事詩  
問22 ② ①×死後 生前 ④×抑制  
問23 ② ①×個物に内在 イデア界にある ③④感覚はイデアを捉えられない  
問24 ④  
問25 ③

問26 ①  
問27 ③  
問28 ④  
問29 ③  
問30 ④  
問31 ④  
問32 ④ ×「契約」  
問33 ②  
問34 ①  
問35 ②  
問36 ③ ①ソクラテス ②アウグスティヌス ④ストア派  
問37 ②  
問38 ①  
問39 ②  
問40 ③  
問41 ①  
問42 ③  
問43 ②  
問44 ④  
問45 ④  
問46 ①  
問47 ④  
問48 ②  
問49 ①  
問50 ④  
問51 ③  
問52 ①

- 問53 ①  
問54 ③  
問55 ①  
問56 ④  
問57 ⑤  
問58 ① ②プラトン ③ソクラテス ④プロタゴラス  
問59 ⑤  
問60 ④ ①×欲望 ②馭者=理性 ③中庸=過剰を避ける  
問61 ② イ=ヴァルダマーナ ア荘子から判断  
問62 ③  
問63 5 ⑧ 6 ⑥ 7 ④ 8 ③  
問64 ③ アリストテレス  
問65 ①  
問66 15 ⑦ 16 ① 17 ⑤